

物語を手で紡ぐ。

「物語るテーブルランナー」は二〇一四年に阿仁合で始まり、その後、青森、奥能登、フィンランド、タスマニア、シドニーとさまざまな場所で巡り合った人々の物語を聞き、訳し、描き、縫って、編んできた現在進行中の手芸プロジェクトです。
三〇〇点を超える作品の中から約五〇点を田沢湖図書館で展示します。

物語る テーブルランナー 展

in 田沢湖

2023

10/7 (土) ▶ 11/19 (日)

9:00~17:00 (月曜・祝日・月末は休館)

田沢湖図書館 1F 入館無料

〒014-1201

秋田県仙北市田沢湖生保内字武蔵野 105-1

☎ 0187-43-1307



- 主催：仙北市教育委員会・仙北市立田沢湖図書館
- 協力：鴻池朋子・ハンズクラフト秋田・阿仁合コミュニケーション・村井まや子

「…東北の震災後、台風とか自然災害や雨や風みたいなものと一緒に制作ができる、という実感が体にぐっと意識化しました。それで当時、秋田県の美術館から展覧会依頼が来ていたので、《美術館ロジ》という、東北の山小屋に作品を設置するプロジェクトを提案しました。その拠点となった場所が阿仁合という山里で、その地元の女性たちが、私たちスタッフのために食事を持ち寄ってくださることがありました。皆さんと食事を一緒にとっていた時に、あるビジョンがパッと浮かんだんです。忙しく夕飯の支度をしながら賑やかに手と口がよく動き、食卓に山のご馳走が並べられていく様子に、「ああ、展覧会はこうでなくちゃ」って思ったんですよ。設置は壁でなくテーブル、支持体は紙やキャンバスじゃなくランチョンマットのような布、そこに描かれるのはささやかな個人の「語り」だな、人の語りを聞こうと。それが《物語るテーブルランナー》の始まりです」(鴻池朋子)

『この出来事』 鞆の津ミュージアム (2021.3)
p68より一部抜粋



「物語るテーブルランナー」の構想が浮かぶきっかけにもなった、阿仁合の方たちと囲む賑やかな食卓 (秋田県北秋田市、2012)

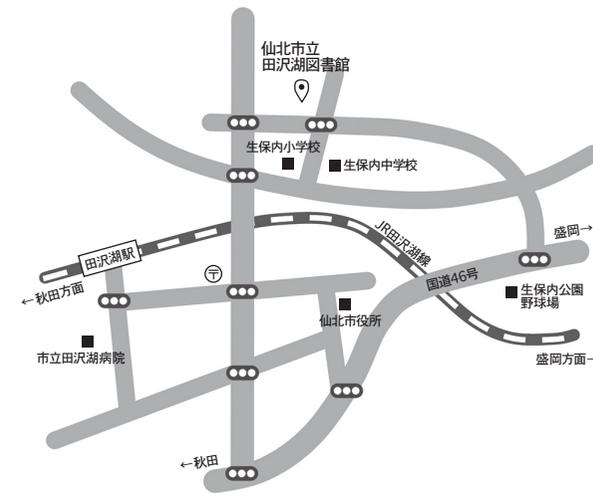


物語の話者は、鴻池の下絵をもとに今度は手芸で自身の物語を縫っていく (秋田県北秋田市、2014)

「物語るテーブルランナー」は、現代アーティストの鴻池朋子さんが2014年に企画し、旅先で巡り合った人々の物語を聞き、それをランチョンマット大の下図に描き、その下図を語った本人が手芸で縫って制作してきた手芸プロジェクトで、現在もさまざまな場所で継続中です。

「物語るテーブルランナー in 田沢湖」は、仙北市民の方から田沢湖図書館に寄せられた「阿仁合で見たテーブルランナーが忘れられない。図書館で開催できないか。」という話をきっかけに、鴻池朋子さんや東海林裕子さん(ハンズクラフト秋田)、長谷川拓郎さん(阿仁合コミュニティ)、村井まや子さん(おとぎ話文化研究)のご協力のもと実現しました。

そっと布や刺繍に触れると、文字とは違う物語が自分に流れ込んでくるのを感じます。人々の語りがその人を離れ、テーブルランナーというかたちをとり、見て触れて読む人を待っている。本たちよりもおしゃべりなテーブルランナーたちの声が、図書館という場でどのように響くのか—その声に耳を傾けてください。



仙北市立田沢湖図書館
〒014-1201 秋田県仙北市田沢湖生保内字武蔵野105-1
☎ 0187-43-1307 (JR田沢湖駅から徒歩20分・駐車場有)
https://www.city.semboku.akita.jp/citizens/12_03.html

※会期中トークイベントを予定しています。
情報随時更新中。
<https://www1.city.semboku.akita.jp/WebOpac/webopac/inform.do>

